

スポーツを通じて人々の繋がりを深め、 成長と挑戦を支える教育実践記録

井上 陽¹⁾

Teaching Portfolio of Educational Practices: Deepening Connections, Supporting Growth, and Embracing Challenges Through Sports

Yoh INOUE¹⁾

本稿は、筑波大学と鹿屋体育大学による博士課程・大学体育スポーツ高度化共同専攻の必修科目として開講された2024年度「大学体育論」全10回のうち、木内敦詞教授担当の7～10回目の授業で作成したティーチング・ポートフォリオ・チャート(栗田・吉田, 2021)およびその後レポートとしてまとめたティーチング・ステートメントを整理し、「簡易型のティーチング・ポートフォリオ」として報告するものである。本稿では、東京都市大学FD推進センター(2020)「ティーチング・ポートフォリオ成果報告書」における都市大型ティーチング・ポートフォリオに倣い、「はじめに、1. 責務, 2 理念, 3 方法, 4 成果, 5 目標, おわりに」の枠組みで執筆する。以下では、ティーチング・ポートフォリオをTP, ティーチング・ポートフォリオ・チャートをTPチャート, ティーチング・ステートメントをTステートメントという。

はじめに

現在、筆者はスポーツマネジメントおよびスポーツの社会的影響を専門とする研究者として活動している。特に、大学が主催するスポーツイベントや、地域社会との連携を通じた社会的価値の創出に焦点を当てており、このポートフォリオでは、ティーチングとは異なるスポーツマネジメントの視点から、自身の活動とスポーツマネジメントの実践を題材として執筆している。読者の皆さまには、この内容が、スポーツを通じた新しい学びや視点の広がりへ貢献することを願うものである。

1. 責務

筆者はスポーツマネジメント分野における教育・研究を通じて、学生が理論と実践をバランスよく学び、多様な社会的課題に対応できる力

1) 筑波大学人間総合科学学術院および鹿屋体育大学大学院体育学研究科・大学体育スポーツ高度化共同専攻

Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, and Graduate School of Physical Education, National Institute of Sports and Fitness in Kanoya

を育むことを目指している。これまでにはスポーツアドミニストレーターとして筑波大学体育スポーツ局の「スポーツが変われば、大学が変わる」の授業運営や大学主催のホームゲームを学生と共に企画・運営し、大学スポーツと地域社会との連携をテーマにした実践型の学びをしてきた。また、大学スポーツを対象とした研究や学内の組織マネジメントに関わる中で、体育スポーツ部活動関連の教職員と連携し、コミュニケーション能力や運営スキルを強化するとともに、コーチングに関する専門知識と教育能力の向上に努めている。今後はこれらを通じ、学生に対して大学スポーツの社会的価値を理解・評価する力や実務的なマネジメントスキルを提供し、スポーツマネジメント分野における即戦力となり、持続可能な社会に貢献する人材の育成を目指している。

2. 理念

筆者が教育活動において大切にしている価値観は「挑戦・繋がり・感謝・バランス」である。この4つの柱を基盤に、学生たちが自身の可能性を最大限に引き出し、自らの人生を豊かにする力を育むことを目指している。コーチング哲学として掲げている「自分史上最高の自分をアップデートし続けること」をモットーに、学生一人ひとりが学び続け、成長を実感できる環境を提供することを心がけている。

筆者が信じるスポーツの力は、人々にエネルギーを与え、前向きな気持ちを引き出すことである。この力を最大限に活かすことで、多様な価値観を持つ人々が共生し、個々の個性が輝く社会を実現する一助となると考えている。そのため、教育活動を通じて以下の資質を持つ人材の育成に取り組んでいる。

1. ワクワク・ドキドキする感情を大切にできる人
学びや挑戦に喜びを見出し、物事に情熱を持てる心を育む。
2. 素直に学び、実践し続ける人

新たな知識や経験を柔軟に吸収し、それを行動に移す姿勢を養う。

3. 他者との関係性を育む力を持つ人
人との繋がりを重視し、共に学び、成長できるコミュニケーション能力を磨く。
4. 自分で考え、選択できる「自分軸」を持つ人
他者からアドバイスを聞き入れながらも、自ら目標設定を行い、情報を取捨選択しながら意思決定していく決断力を養う。
5. 困難を乗り越える力を備えた人
挫折や課題を成長の糧と捉え、乗り越える粘り強さを育む。

自身の教育活動を通じて、スポーツがもたらす出会いや経験が学生の人生に豊かさを与えることを伝えたいと考える。そして、マルチなスポーツ経験を通じて自分自身や異なる価値観を持つ他者を尊重し、互いに支え合うことで、スポーツに関わるすべての人のウェルビーイングを高める循環を生み出すことを目指している。

さらに、この理念や目標に共感してくれる仲間を増やすことで、持続可能な仕組みを共に創り上げていくことを志向しており、学生だけではなく、教職員や地域社会と連携しながら、新たな挑戦や価値創造を実現する場を広げていくことを目指している。スポーツを通じた教育の可能性を最大限に追求し、未来を担う人材の育成に尽力する所存である。

3. 方法

SROI (Social Return on Investment; 社会的投資収益率, 以下 SROI) (Social Value International, 2022) を用いた大学スポーツの社会的価値評価を中心とした研究を行いながら、その知見を大学が主催する「筑波大学ホームゲーム TSKUBA LIVE!」(以下大学主催 HG) や大学と企業・自治体が連携する e スポーツイベントの企画・運営に応用し、実務的な組織マネジメント能力の向上を目指している。また、大学スポーツでのマネジメント人材は、指導者との円滑なコミュニケーションも重要であるため、

専門名前 大学スポーツマネジメント 井上陽	作成目的 今年30歳になるのでこれまでの活動の整理とこれからの将来構想	感想 TP、絶対自分に必要だと感じた。今まで経験してきた点と点が少しずつ繋がってきているように感じた。先輩の方達の経験と聞き、これからのビジョンを明確にして、研究も進めていきたいと感じた。	日付 2024/06/08
責任 兄の病気でスポーツ家ではない家庭環境で育ったことから自分自身で価値観についてよく考え、時には疑問を抱きながら育った。	理念 【スポーツとまちづくり】 スポーツは人々にエネルギーを与え、気持ちを前向きにする。 【ヨガインストラクター・テニスコーチ】 スポーツに関わる人たちの全員のウェルビーイングを高める。 【教育者】 多様な価値観を持つ人が共生し、個性を輝かせることができる社会を牽引していく新しいリーダーになる。同じ志を持つ仲間を増やす。リーダーとなる人を育てる。	目標 【大学スポーツマネジメント】 ・2027年3月の修了までに論文を5つ書く。 ・海外の論文投稿誌へに投稿に挑戦する。	目標 【教育者】 多様な価値観を持つ人が共生し、個性を輝かせることができる社会を牽引していく新しいリーダーになる。同じ志を持つ仲間を増やす。リーダーとなる人を育てる。
方針 【大切にしている価値観・コーチング哲学】 ・挑戦・繋がりの感謝・バランス ・自分史上最高の自分をアップデートし続ける	方法 学生自身が考え、自身の選択で困難を乗り越え、成長していくための自動車を育てる ワクワク・ドキドキする感情を大切に、素直に学び、実践し続ける人を育てる コミュニケーションを円滑にし、様々な価値観を受容するために選手・学生・お客様とフラットな信頼関係を築く	方法 トレーニング、練習メニューの提案、食事、睡眠、ヨガ等で心と体のケアを伝えている。 AIスマートコーチ等のアプリの紹介。 様々なコミュニティに顔を出し、他の人が取り組んでいることに興味を持つ。	方法 幼少期から海外で過ごした経験やテニス関係で親から離れ、全く知らない地や知らないコミュニティによく馴染んでいた経験から多様な価値観に触れることができた。一人では達成できない目標も、他の人が持つスペシャルな能力や経験を察し、融合させると今まで不可能だったことも達成できることを学んできた。
① 筑波大学体育スポーツ局スポーツアドミニストレーター (2024年3月退職) ・学生支援、学内連絡 ・企画・運営 ・キャリアセミナー ・スポーツイベント ・ATV/S&C派遣・養成体制の構築 ・授業計画・運営	② テニスコーチ (2028年～) ・地域総合型スポーツクラブで4歳～80歳代、様々な国籍・レベルへの指導 ・高校部活動での指導 ・大学非常勤講師	③ ヨガインストラクター (2022年～) ・東京、つばし、山梨で定期的にヨガクラスを開催 ・ヨガとまちづくり 中国からヨガを学びに筑波に留学しているSumeiと一緒にヨガプログラムを作成する	④ 研究 ・大学体育スポーツ高度化共同専攻入学 (2024年4月) ・研究計画書作成 ・SROIの調査をお手伝い
改善・努力 体調を崩さないよう運動・睡眠・食事を気をつけている。 研究、テニスコーチ、ヨガインストラクターを両立させるために時間の使い方を工夫している。	成果・評価 ① スポーツアドミニストレーター 「体育スポーツ局の取り組みについて質問しやすくなった」と学生が言ってくれた。2023年3月に開催したオンラインでのeスポーツイベントの企画・運営をやり遂げることができた。 ② テニスコーチ JSPQテニスコーチ3の資格取得。6年前に教えていた4歳の教え子が今もテニスを楽しく続けてくれた。また同じく新入社員の時、指導していた女子が立教大学テニス部に入部してくれた。 ③ ヨガ 自主開催のヨガクラスを1年以上続けられた。ヨガ開催場所が3箇所増え、ヨガを始める人が増えた。またテニスを新しく始める人も増え、運動を習慣化させている仲間が増えてきている。	④ 研究 大学体育スポーツ高度化共同専攻入学。東京都健康長寿医療センターでの非常勤講師としても研究を開始した。	改善・努力 オープンマインドである 必ず参加者全員が発言する機会を作る 個人の内立ちや怪我、運動経験等を聞き、メモに残す 参加者同士の関係性を作るよう練習の雰囲気や練習内容を工夫する 練習が効率的かつ効果的に進められると判断した場合、一緒にボールを打ったり、トレーニングをする

© 2016 Kayoko Kurita

スポーツ指導者としての専門性も深めるべく、コーチング理論の実践や学びを重ねている。以下に具体的な方法を記す。

- ① 大学スポーツの社会的価値評価についての専門性を磨く
 - 継続的な学習と人間関係の構築
 - ・ 筑波大学体育系および研究室を軸に、国内外での専門家とのネットワークを構築。
 - ・ SROIに関する最新の研究成果やスポーツ科学の知見を収集し、変化に柔軟に対応する力を養う。
 - 論文投稿
 - ・ 日本の大学スポーツでの SROI 調査の応用方法を検討し、一般化する一助となることを目指し、博士論文に取り組む。
 - ・ SROIに関するレビュー論文や原著論文を執筆し、成果を発信する。

- ② 実務的な組織マネジメント能力の開発
 - データ収集と分析結果の活用
 - ・ 大学主催 HG で SROI 調査を実施し、収集したデータを活用し、運営の課題解決に寄与する提案を行う。
 - ・ 分析結果をチームリーダーやスタッフに適切に共有し、運営組織内の円滑なコミュニケーションを促進する。
 - e スポーツイベントのプロデュースサポート
 - ・ デジタルコンテンツを取り扱う企業に所属し、大学や自治体との連携プロジェクトの企画運営を通して、プロジェクトマネジメント能力、リーダーシップを向上させる。
 - ・ プロジェクト関係者との関係性を深め、大学主催イベントへ知見を還元する。

③コーチングに関する専門的知識と実践的教育能力の向上

○理論の学習

- ・グローバルスタンダードな視点で最新のコーチング技術やスポーツ医科学を学習する。
- ・筑波大学が持つ体育スポーツに関するノウハウや指導者と交流できる環境を活用し、競技横断的な専門知識を吸収する。

○テニスコーチとしての実践的指導

- ・日本スポーツ協会が推進しているプレーヤーズセンタード（松尾，2021）な指導とアメリカのNPO法人Positive Coaching Allianceが提唱しているダブル・ゴール・コーチング（ジム・トンプソン，2021）を取り入れ，対象者の競技目標と人生目標を統合的に支援し，その場に関わる全ての人が高まるポジティブな関係性を築く。
- ・都立高校テニス部や大学の授業でのテニス指導において，学生がテニスを通して仲間と協力しながら課題や目標に挑戦する姿勢を育み，以下の能力を身につけることを目指す。
 1. テニスの基本的技術や戦術を学び，実践する。
 2. 仲間と協力し，テニスを楽しむ方法を身につける。
 3. テニスを通じて心身の健康を保つ方法を学び，実践する。

○ヨガインストラクターとしての活動

- ・地域住民との交流を目的としたヨガクラスを展開し，地域社会の活性化に貢献。
- ・ヨガの心身をケアする特性を活用した指導経験をテニス指導やその他の活動にも役立て，オリジナリティを育む。

以上の方法を通じて，研究，実務，教育の3つの柱を融合しながら，大学スポーツの可能性を広げ，持続可能な社会に貢献する人材の育成に取り組んでいく。

4. 成果

研究活動では，SROIの分析手法を日本の大学スポーツの文脈に応用した社会的価値評価を行い，論文投稿を予定している。また，大学主催HGでの調査結果を運営関係者にフィードバックし，学生スタッフから「取り組みへの理解が深まった」との評価を得た。さらに，テニスコーチの資格取得や指導活動，自主開催のヨガクラスを通じて運動習慣の普及に努め，これらの活動が評価され，一橋大学で特別講師として活動を発表する機会を得た。

5. 目標

短期目標としては，2024年度末までに2本の論文を投稿予定である。2025年度の大学主催HGにおいてもSROI調査を実施し，日本の大学スポーツにおけるSROI調査手法の応用方法について検討する。また，調査結果をもとに運営の改善提案を実施し，大学スポーツの発展に貢献する。2026年度には博士論文の審査及び最終試験に合格することを目標としており，これらを通じて，自身の教育理念を洗練させていくと共に指導者及び研究者としての能力を磨き，大学スポーツマネジメント分野でより大きな貢献を目指す。

おわりに

筆者が目指すのは，今まで過小評価されている可能性のある日本の大学スポーツの社会的価値を明確にし，その可能性を最大限に引き出すことである。これまでの研究や実務を通じて得た知見を活かし，スポーツを通じて人々の生活を豊かにする仕組みを創造していきたいと考える。そのためには，専門性の向上と実践的な取り組みを両立させ，個々の成長とコミュニティ全体の発展に貢献していく。読者の皆様におかれましても，筆者の取り組みを通じて，スポーツが持つ力や可能性について共感いただけることを願うものである。これからも挑戦を続け，

学びと実践を通じて築いた成果を共有し、社会に還元していくことを目指す所存である。

付記

本 TP を作成するにあたり、メンターを務めてくださった木内敦詞先生、意見を交わした筑波大学人間総合科学学術院および鹿屋体育大学大学院体育学研究科・大学体育スポーツ高度化共同専攻学生のみなさまに心よりお礼申し上げます。

文献リスト

栗田佳代子・吉田 壘：リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座。医学書院，2021。

栗田佳代子：大学教員の教育業績評価の方法としてのティーチング・ポートフォリオ。大学評価研究，19，2020，55-63。

松尾哲矢：〈特集〉JSPO は、なぜ「プレーヤーズセンタード」を提唱するのか：PART 1 それは、まさに必然だったプレーヤーズセ

ンタード推進の理由、『Sport Japan』（日本スポーツ協会），56，2021（7・8），4。

ジム・トンプソン：「ダブル・ゴール・コーチング—勝利と豊かな人生を手に入れるための指導法—」鈴木佑依子訳，東洋館出版社，2021。

セルディン，P：「ティーチング・ポートフォリオ作成の手引き：大学教育を変える教育実践記録」栗田佳代子訳，玉川大学出版部，2007。

東京都市大学 FD 推進センター：2020 年度ティーチング・ポートフォリオ成果報告書，online。 <https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2021/03/20210325-605c90e90d057.pdf>

Nicholls, J. “Social Return on Investment—Development and Convergence”. *Evaluation and Program Planning*, 64, (2016), 127-135.

Social Value International. *Standard on applying principle 8: Be Responsive*. 2022.